



珠洲商工会議所
会 頭 今 井 欽 次

あけましておめでとうございます。
東京奥能登応援団の会員の皆様には健やかに初春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

昨年は地元出身の皆様が立ち上がり低迷する能登を支援しようと東京奥能登応援団を結成していただいた記念すべき年でありました。本年は地元能登地域でもこれに応え組織的な交流と親交を深め更に発展させていく大事な年であると思います。

奥能登は宝の山だとよく言われます。

皆様にとってはふるさとを思い出す「祭」などの伝統的行事や日々の生活風習などは、いまや貴重な地域資源であると言われています。この原石とも言える地元資源を磨き上げ日本中に誇る宝石とするには応援団の皆様のご支援なくしては成り立たない訳であります。

地元では里山里海を守り「食」を中心とした交流人口の拡大と農林水産業の振興を図り地域の活性化が進められていますが、私共商工会議所においてはこのような取り組みに加え観光産業を中心とした地元事業の振興を目指して参りたいと思っております。

そのためにも在京の皆様とこうした地域資源の素晴らしさを認識し合い情報の交換を密にして全国に発信したいと思えます。そして皆様の故郷がいつまでも元気でいられるよう頑張ってお参りたいと思えます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 21 年 新春

◀

「黄金の時」(見附島) 岡崎 洋児 氏

洋画家 昭和 16 年狼煙生まれ、独学で絵を始め渡仏し、イヴェ・プレイヤーに師事。時代への鋭い洞察力と精密な描写性で独自の画風を確立し、サロン・ドートンヌ(作品買い上げ)など国際展、国内の一陽展特賞など多数受賞している。無所属。《珠洲市狼煙町カ-58 Tel 0768-86-2680》



いっしょ

アイデンティティ ①

不沈半島・能登

越後湯沢で乗り継いだ列車が親不知・子不知トンネルをぬけると、車窓右側に日本海が開ける。間もなく海上奥幽かに線を引いたように浮上した水平線分は次第に確かな形をなしてくる。それは単なる景色ではない。己とつながる人の住む能登と確信した時、心ときめくのは私一人ではあるまい。

羽田を飛び立った飛行機は一気に本州中央の山々を眼下とし、降下を始めると、もう海らしく視界には島のように紛れもなく陸を発見する。加賀と越中から日本海へ角のように突き出した我が突端である。私はこの特異な形状の能登半島に殊の外魅力を感じているのである。

東京で、小学 5 年生社会科「わが国土」を教えていた頃のことである。真白い紙に日本略地図をよく書かせたものだが、能登半島を日本海に沈めた地図は×に決まっていた。子どもも然る者で私を喜ばせるが如くに悪戯っぽく誇張して描くのであった。先日 50 半ばを過ぎたその連中の同窓会に呼ばれ、例の日本地図の課題を出すと、どの御仁も私の認識より詳細に能登の形状を表すのである。そして、半島の姿から、かつて「大名帽子」のようだと命名し合意したことが反芻され話題を生んだ。

彼等の多くは奥能登を旅している。K さんは狼煙祿剛崎灯台に立った時、「地図帳の日本地図を開け。コンパスを持って。灯台を軸に北海道・沖縄を入れて円を描け。どうだ！日本がすっぽり入って、しかも、周辺の朝鮮半島、中国北東、ロシア(当時ソ連)が入り込んでくるだろう。奥能登は孤島と呼ばれ、日本の辺境とも称されるが、中心点なのだ。」という授業を想起したという。研究家の S 君は、今過疎化しているがかつては早くからユーラシア大陸と交易した先進地域だった。△海の駅 V を行き来し、人と物の交流が盛んだった。言わば表玄関だったと推論する。歴史事象は想定されるが、記録資料は残されてはいない。

いいじゃないか。不沈・能登半島に関わる話は。

(押上武文(府中市・宝立町出身))

できごと

●「いしかわ県人祭in東京」開催される

10月24日高輪のランドプリンスホテル新高輪で首都圏在住の石川県出身者が一堂に会して「いしかわ県人祭in東京」が開催された。初めての企画であったが1千人が大宴会場飛天の間を埋め尽くした。

石田寛人実行委員会委員長（石川県人会会長）が開会を宣言し、前田家18代当主前田利祐氏（同名舎会長）、谷本正憲知事、森喜朗元首相が挨拶し、飛田秀一北國新聞社社長が「石川を良くするための応援団になっていただきたい」と述べ乾杯の発声を行った。

実行委員会に参加した首都圏の80余のふるさと会の一翼に名を連ねた飯田高校同窓会東京支部、東京奥能登応援団は、表久雄飯高同窓会東京支部長、谷克巳東京珠洲会会長、安田正さいたま石川県人会会長ら50人が参加し、奥能登地域のテーブル群に集い、来賓として参加した泉谷満寿裕珠洲市長を囲んで歓談した。能登弁での久方ぶりの同級生交歓の場面やリップミュージシャン松谷茂氏や珠算準名人松田沙也香さん（早稲田大生）とのふるさと談義などに盛り上がりがあった。

テーブルに並ぶふるさと会の地酒や食材を堪能しながら舞台で行われる郷土芸能や白山市出身の山本あきさんの歌などを楽しんだ。

お楽しみ抽選会では、奥能登応援団からビック8本のうち2本が当選し、加賀友禅や加能力2の詰め合わせの景品に思わず歓声が上がった。

この催しが、恒例行事となることとが発表され、懐かしいふるさとの名産をお土産に来年の再会を約して散会した。（今年の開催は10月23日の予定です）



●観光大使・珠洲春希さんを囲んで交流会を開催

●観光大使・珠洲春希さんを囲んで交流会を開催

奥能登応援団は、10月29日ファンクラブと「珠洲交流会」を企画し、珠洲から上京した宝塚歌劇団宙組東京公演観劇ツアー一行と麹町・ダイヤモンドホテルで合流、珠洲春希さんを囲む集いを40人で開催した。東京勢は、石川県人会西斎事務局長をはじめ、在京各ふるさと会の表久雄支部長、谷克巳会長、安田正会長、明石憲章会長らが参加した。

舞台を終えて駆け付けた珠洲春希さんは、「観光大使になってから珠洲市はどの辺にあるのと尋ねられるなど話題になることが多くなりました。珠洲のいいところをたくさん紹介していきたい」と挨拶した。珠洲市水元英樹副市長の乾杯で懇親となり、参加者は差し入れの地酒を楽しんだり、珠洲春希さんと記念撮影を行うなど歓談した。珠洲商工会議所今井欽次会頭が、珠洲春希さんの活躍と珠洲市の発展を祈念して万歳で中絶した。



麹町ダイヤモンドホテル金剛飯店で珠洲春希さんを囲んで

能登弁を思い出してみませんか

「すすろものがたり」（昭和33年2月発行から）

今は昔のはなし・ほそかわ秋堂（その一）

（炉端、焚き火にあたりつつ声を出して談いでくばる）

—— 正院町川尻、新保貞吉氏談 ——

新年おめでとござんすがネン、おれもはや、いよいよ七〇の坂ア超したわネン。考へてみりあ、はやはや、よう今日まで生きとツたもんやと……いやいや幽霊でござんしよ、なんせ、あんた、樺太の先で昆布採りした時ア……まあきいて下んせ。夜朝暗いうちに浜を出る時ア「あやまち、へんよつにツはよいらッしネン」と、あんた、七・八人のあねまたちの声に送られて沖にでるがやネ。三人つづ舟の両がわに六人、かいをそろえて「エーシヤホー」「エーシヤセツ」と漕ぐがやネ。ともの真中に船頭きちんと座って舵をとるがやネ。二里も三里も沖に出て、いよいよ昆布の生えとるところへ来ると、こんどは長い長い竿をこつ船端から入れて（起きて真似しつつ）そろそろと昆布を竿に巻き付けるがやネン。ほれから「ウンサ、モッサ」と舟に引き上げるがや……あんた……でつかい三角波、え、え、一間余りもある奴が来る波の上の仕事やものの、ヒョットすると船端にこつ踏どる竿をまたいでヒョロつく……そのま……あんた……竿の重さでドンやがね。おもしろい昆布の林に渦を巻くとるところに落ちたら、ほれでダツチャカンわけ。体も何も見えんがなつても、もう上がらんがです。

あんたらち、どつかどうが昆布を使わすときア、この昆布にどれだけの人ア、死



んどるか思うて、あだやよろかにへんと、おつけだしにした時ア、上げたらすのんと味噌漬けにして弁当のさいにでもして、ほんとに粗末にさしなけ。おらアイつもうちのものにこの話しては、今でも昆布をいだいて食べとるわけの。ほれから浜に戻ってくりあ「達者やっただけ、ご苦労さんッ」と口々に呼んで、舟のゴロや筋を敷いてくれるあねまらツちゃの声に嬉しなって、海の苦しいがおもしろいも忘れてしまったわけ……今の若衆らつちやにこんな話しても本当にへんやろが……

（次号につづく）

復元と復刻二題

●デカ曳山

珠洲の秋祭りの中で、宝立町鶴島、上戸町、正院町で山車が出ているが、かつては、海岸の砂浜で引かれ「デカ曳山（ヤマ）」と呼ばれていた。デカ曳山は、海岸の浸食・護岸堤防の影響で町中で引くため、二分の一位に縮小されてしまった。「珠洲デカ曳山保存会」（代表平蔵歳吉理事長）が復元を進め、10月11日鶴島海岸で復元したデカ曳山のお披露目が行われ大勢の観客が集まった。宝立町鶴島に展示され、誰でも見学ができる。11月帰省して見学した惣口はつ子さん（世田谷区・旧姓赤坂・宝立町出身）は「デカ曳山の前に立ち、懐かしいキラゲの掛け声が聞こえてきました。娘に自分の子どもの頃の話をしました。ふる里はいいですね」と感想を述べている。また、復元・展示場建設に多額の費用を要したことから寄付を募っている。

デカ山の展示場所…珠洲市宝立町鶴島南黒丸

お問い合わせ先…珠洲デカ曳山保存会 珠洲市宝立町鶴島

21-17-11 平蔵歳吉 TEL 0768-842525 FAX090-3887-1650

●「すすろ物語」

―復刻版二―

平成20年7月珠洲市郷土史研究会（会長木下力夫）が「すすろ物語」―復刻版二―を発刊した。平成18年7月の「復刻版一」に続く刊行となる。「すすろ（珠洲路）物語」は戦後間もない昭和25年創刊されたが、手書き、ガリ版刷りで紙質も悪くタイプ印刷に移行前の33号までを2冊に分け、活字化して復刻した。

今回は昭和30年から同43年までの分を収録したもので、木郎方言考、能登の童唄、小木のとも旗祭り、片岩のタタキ祭り、珠洲焼の由来、珠洲の瓦工業の発達、珠洲の海運史、西海村の製塩、各地の村はなし・伝説など貴重な研究の記録が登載されている。

郷土史研究会の方々の力作である各資料から、郷土の先人の生活や智慧が窺われる。価格3500円（税込み）《B5版五二〇頁》

お問い合わせ先…〒927-1204 珠洲市蛸島町1-2-563

珠洲市立珠洲焼資料館 TEL 0768-826200



●「北陸農村の母と子の実態」

―奥能登若山村の母子健康調査―

平成20年9月若山町古蔵 曹洞宗昌樹寺の井丹哲全住職（元飯高教諭・68）が、姉の山田万智子さん（武蔵野市在住・75）と共同で同寺の前住職であった父萬全さんの労作「北陸農村の母と子の実態」の復刻版を作成した。

萬全さんは、昭和10年東京から帰郷し住職を務める傍ら、食糧学校の教務主任をしていた経験を生かし地域の栄養・衛生改善を指導を行うと共に若山村の母子保健調査を実施した。調査書は、昭和15年から同21年までの妊婦の健康状態、乳児死亡の実態、労働状態などの記録で昭和26年発行された。

哲全さんと万智子さんは



現代の食料問題解決の端緒にもなるのでは、と復刻を決意した。「この本が医療や栄養学の関係者に活用されれば」と話している。復刻版に寄稿した哲全さんの大谷中学時代の教え子である服部栄養専門学校栄養士科台蔵昌子学科長（北区・旧姓谷・大谷町出身）は「日本の食生活の歴史を知る機会をいただいた」と感謝の言葉を述べている。

お問い合わせ先…〒180-0014 武蔵野市関前3-37-20

山田万智子 FAX 0422-51-7700

頑張る奥能登人

―珠算準名人の松田沙也香さんをご紹介します―

今月の七月、日本珠算連盟主催の名人位決定戦で準名人となりました。来年は是非名人にと期待されています。

松田さんは石川県

珠洲市正院町出身、

早稲田大学二年生で

す。3歳からそろば

んを始め、小四で暗

算十段、小五で珠算

十段を取得。数々の

全国大会・国際大会

を経て、現在に至っ

ています。



名人戦で準名人になった時の写真です

最近の成績は

日本珠算連盟主催十七代珠算名人位決定戦（二〇〇八・七・二〇）準名人

全国珠算教育連盟主催平成二〇年度全日本珠算選手権大会（八・八・二二）二位

全国珠算教育連盟主催平成二〇年度全日本通信珠算競技大会（九・十・九）二位

大阪府立天王寺商業高等学校主催第五七回全国計算競技大会（十・十一・三〇）優勝

個人位 団体（早稲田大学）優勝

個人位 団体（早稲田大学）優勝

松田さんのメッセージ…

珠洲の仲間たちはじめ、たくさんの方々への応援が私の元気の源です。私を育ててくれたふるさとにいつも感謝しています。奥能登出身であることを誇りに、幼い頃から夢だった「そろばん日本一」を目指して、これからも努力を続けます。

◆ ご存じですか ◆

のとキリシマツツジのルーツは、江戸時代に九州霧島山系の野生ツツジから選抜された木が全国的に広まったといわれています。樹齢数百年といわれる古株が能登地方の各地に散在しています。珠洲市・石川県の天然記念物に指定されているものもあります。その多くは個人宅の庭に大事に世話をされて植わっています。



大谷町 池上家 (石川県天然記念物)

例年の見ごろは5月の2週目前後ですが、どちらのお宅でもこの時期庭内を開放しており、誰でも自由に盛りの花を観賞することができます。

近年は地元のファンばかりでなく、観光ツアーのコースとして紹介され、大勢の見物客が訪れ、深紅の花弁が葉、枝、木すべてを覆い、辺りを真っ赤に染める光景に感嘆の声があげられます。

地元で著名なのは、**正院岡田の桜井家・正院岡田の池上家・三崎町寺家の猿見田家・若山町終念の末政家・大谷町の池上家**などです。のとキリシマツツジの開花に合わせて帰省して観賞しませんか。

また、のとキリシマツツジを育てて見たいという方には、苗木を分けていただけるそうです。奥能登応援団の皆様は特別に20本用意していただいています。送料は自己負担となります。

お問い合わせ・苗の申込み先

珠洲商工会議所内「のとキリシマすず愛好会」

珠洲市飯田町一―一九 TEL / 0768-82-1115 (代)

◆ 「きりこの会」(仮称)からのお願い ◆

東京で「きりこ」を出そうと計画している有志の皆さんがいま。この企画は、能登の観光PRになりますし、同時にふるさと会が集う、心のよりどころともなると思います。京都で珠洲から移入したきりこの祭りが盛大に行われた話を聞いたことがあります。東京では、数年前「大江戸祭り」にきりこが参加しましたが、珠洲の皆さんが東京に運んできて参加したものでした。東京の祭

りには、高田寺の阿波踊り、阿佐ヶ谷の七夕祭り、板橋のねふた祭りなど、地方の祭りが東京で回を重ね定着している例が沢山あります。

いきなりメジャーとはいきませんが、昨年鶴岡のきりこがハワイのフェスティバルに参加して大喝采であったそうです。実現までには様々な隘路が予想されますが、「東京できりこを出そう」との有志の皆さんの夢が実現できるよう、大いに応援したいと思います。

ついでに、まずお願いします。

- ◎ 都内・近郊できりこの資材を廉価で通年保管出来る場所
- ◎ きりこの祭りを受け入れてもらえる各地の行事に関する情報を募っています。
- ◎ きりこをかつく方、太鼓・笛をやっていた方

ご連絡をお待ちします。

〒171-0022 豊島区南池袋2-14-1マンシオン池袋106

祭 番 (八木淳成) TEL 03-3989-1808

URL <http://www.toshima.ne.jp/~matsuri/kiriko.html>

◆ 能登で「マクベス」公演 ◆

今秋、能登中島・能登演劇堂で「マクベス」公演が行われます。これまで毎年全国公演で行われていましたが、無名塾 仲代達矢代表が「能登地震の復興」に寄与するため、能登演劇場で50日のロングラン公演を決めたものです。期間中3万2千人の観客を全国から能登に集めたいとしています。相馬馬追いから寄せた馬7頭も疾走する野外背景で迫力満点の舞台が堪能できるそうです。12月13日石川県人会理事會に若村麻由美さんも駆け付けて観劇を呼びかけられました。皆様、帰省を兼ねて是非観劇していただきたいと思います。



事務局から

10月24日の「いしかわ県人祭in東京」は、1千人の参加で大盛会でした。飯田高校同窓会、当応援団で5テーブルを確保、泉谷市長を囲んで和気あいの懇親の場となりました。定例会としての開催が決まりましたので、来年はもっと多くの方に参加していただきたいと思います。

また、11月29日の珠洲市観光大使の宝塚歌劇団・珠洲春希さんを囲んでの交流会も水元珠洲市副市長はじめ40人の参加があり、大変楽しい集いとなりました。

いずれも初めての催しでありましたが、ふるさとを想う方々の交流の場として今後も盛り上げていきたいと思っています。

※ ※ ※

10月に飯田高校のクラス会(18回生3B)を東京で開催し、翌日鎌倉観光に行き



昭和41年卒(18回生)3Bクラス会・鎌倉

ました。ウイークデーにもかかわらず鶴岡八幡宮の参道商店街は大勢の人出でした。珠洲からの参加者から思わず出た言葉が「飯田の祭りでもこんだけの人はおらんわ・・・」でした。

東京開催を誘致しそれなりに喜ばれたものの、東京に金を落としても故郷の活性化に貢献できないのでは、と内心複雑な心境になりました。今年は地元「珠洲開催」ということになり、少し気が楽になりました。

お知らせ

このたよりは、メール便でお知らせしておりましたが、第4号から「東京奥能登応援団のホームページ」を開設いたしますので、アクセスして閲覧ください。

ホームページアドレスは <http://okunoto.net> です。

ホームページへの掲載は、4月、7月、10月、1月の年4回といたします。

(従来どおりメール便での送付をご希望の方は書葉かFAXでお知らせください。)